

會 員 の 頁

第 22 卷 第 11 號 昭和 11 年 11 月

東 亞 民 族 の 技 術 的 提 携

會 員 宮 本 武 之 輔

9 月 28 日 鐵道協會に開催せられた本會と日本技術協會との共同主催に成るシヤム國及滿洲國技術家招待講演會は近頃でも最も有意義な催しの一つであつた。シヤム國からは國有鐵道運輸課長のルアン・ヅキデユラ・ヅキデユール君、滿洲國からは鐵路總局哈爾濱鐵路局的趙成楷君が夫々講演の任に當られた。ヅキデユール君の講演は英語で日本の鐵道技術に關する感想とシヤム國々有鐵道の紹介とを明快に述べたものであり、趙君は名古屋高工を卒業しただけに日本語で現在の北鉄が東支鐵道と稱せられた時代から今日までの建設保線の沿革を述べたものであつた。

講演が終つてから後の晚餐會では井上會長の歡迎の辭、ヅキ、趙兩君の挨拶、その他會員側から東亞民族親善促進のテーブル・スピーチがあり、食事後も別室に於て歡談が交換せられ、そこに東亞民族親善の和やかな雰圍氣が醸し出されたことは私の衷心から欣快とする所であつた。

本會に東亞部が創設せられたのは約 1 年前であるが、現時の世界情勢から見て東亞各民族の獨立と繁榮とを確保する爲には東亞各民族の間に緊密なる親善提携が確保せられなければならないのに拘らず、少くとも現在の狀態ではそれが我々の希望する方向に、そして希望する程度に進展してゐないのは極めて遺憾である。それは何故かと言へば東亞各民族の間の接觸と理解とが不充分であり、不完全であるからではあるまいか。

各民族の間に緊密なる接觸を保ち完全なる理解を遂げて、その基礎の上に經濟的文化的的提携を確立し、以て眞の親善關係を結ぶことが刻下の急務であることを私は確信して渝らない者である。

我土木學會東亞部は上に述べた様な理想の下に特に技術者としての立場から東亞民族の親善に貢獻することを目的として創設せられたものであると記憶するが、今や東亞聯絡委員會、東亞調査委員會の 2 委員會を設け在外委員と聯絡を保つて各方面にその活動し得るまでになつた。

未だ何れの學協會にも先例のない本會東亞部が此の域にまで生長したことを私は本會の爲に、國家の爲に、そして東亞民族の爲に慶祝するの念に堪へない。

近頃は我國の土木技術者が滿洲國やシヤム國、アフガニスタン國などに招聘せられ 鋼橋、機關車、貨車、軌條などの商取引が東亞各國との間に漸く頻繁ならんとする趨勢にあることは寔に欣快に堪へない所であるが、それらの遣外技術者を招いての送別會や、又はかうした講演會の開催が本會によつて企てられる様になつたことは、假令その當面の効果は僅少ではあらうとも、土に播かれた椰子の實がやがては到る所に芽生えて鬱蒼たる密林を造るに至るであらう將來を私は確信を以て待望する。

此の意味に於て私は本會東亞部の前途に多大の興味と關心とを繋ぎ、それと同時にその同じ興味と關心との保持を大多數の會員諸君に要望するの念切なる者である。(11・10・7)